

# システム開発・保守QCD研究会2023

2024年4月11日

一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会  
システム開発・保守QCD研究会

# 目次

1. 研究会の取り組み（目的・内容）
2. 研究会参加企業、参加者
3. 2023年度の取り組み
  - (1) 定例会の進め方
  - (2) 研究会で大切にしていること
  - (3) 会場開催形式の本格的再開
  - (4) 2023年度事前アンケート
  - (5) 2023年度、紹介された事例は…
4. 今年度固有の活動—JUASアカデミー開催
5. 2023年度、沼津合宿が復活しました
6. 2024年度の取り組みについて

# 1. 研究会の取り組み(テーマ・内容)

# 1. 研究会の取り組み（テーマ・内容）

## 【研究テーマ】

システム開発における品質・コスト・工期・生産性の改善  
«知見を共有しメンバー・企業のレベルアップを図る»

## 〔内容：各社事例発表・共有〕

- ⇒ システム開発・保守における品質・コスト・工期・生産性の向上及び改善にむけた取り組みについて、各社の事例を発表  
«自社内への展開含め改善のための事例共有»
- ⇒ 発表事例をもとにグループディスカッションを実施
  - ✓ 少人数でディスカッションを行うことで課題の深掘りや、メンバー間の交流を深める。
  - ✓ 事例を土台に各社の取り組みを聞くなど、発表した人も情報収集が可能な場になった。

## 2. 研究会参加企業、参加者

## 2. 研究会参加企業、参加者－1

NO		会社名	参加者氏名(敬称略)
1	部会長	MS&ADシステムズ株式会社	濱田 裕子
2	副部会長	SOMPOシステムズ株式会社	駒井 昭則
3	副部会長	株式会社DNPヒューマンサービス	高橋 康介
4	副部会長	東京海上日動システムズ株式会社	東山 宏司
5	副部会長	株式会社ジャステック	鈴木 興司

事務局		
	事務局	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

## 2. 研究会参加企業、参加者－2

NO		NO	
6	株式会社アバント	19	株式会社大同 I Tソリューションズ
7	A N Aシステムズ株式会社	20	株式会社中電シーティーアイ
8	株式会社エクサ	21	T & D 情報システム株式会社
9	カシオ計算機株式会社	22	T D C ソフト株式会社
10	株式会社カネカ	23	株式会社テプコシステムズ
11	京セラ株式会社	24	東京電力ホールディングス株式会社
12	コープ情報システム株式会社	25	東芝インフォメーションシステムズ株式会社
13	小林製薬株式会社	26	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
14	サントリーシステムテクノロジー株式会社	27	日販テクシード株式会社
15	J F E システムズ株式会社	28	パナソニックホールディングス株式会社
16	株式会社ジェーシービー	29	富士フイルムホールディングス株式会社
17	独立行政法人住宅金融支援機構	30	前田建設工業株式会社
18	スミセイ情報システム株式会社		

**30社(団体)31名(除くJUAS)の方が参加**(2024/3/5時点)

# 3. 2023年度の取り組み ～各社の事例発表・共有の成果報告～



## (1) 定例会の進め方

参考になる取り組み事例を参加者が紹介し、ディスカッションを行うことで、研究会メンバー各社の知見の共有に繋がっています。

- 開催日時
  - ・ 基本毎月第1火曜日 14時30分～18時00分
  - ⇒ 2023年度は全10回で、うち9回の各社事例発表会を開催
- 1回の発表数
  - ・ 3～4テーマ
  - ⇒ 2023年度は、合計32テーマの発表（特別講演の4テーマ含む）
- 発表・質疑時間
  - ・ 発表：約25分
  - ・ 質疑応答（意見交換）：約5分
- グループ・ディスカッション
  - ・ 約30分
  - ・ 参加者の発表終了後、テーマごとに分かれてディスカッション

## (1) 定例会の進め方

〔事例紹介テーマの方針〕

**各社事例発表**のテーマについて、事前アンケートを参考に以下を方針として準備をお願いした。

### <QCDに関連するテーマ>

例：プロジェクト事例紹介（成功、失敗）、  
全社レベルの品質改善、生産性向上への取組、  
メトリクス活用事例、人材育成、上位工程の改善取組  
（要件定義工程での品質評価方法etc）

## (2) 研究会で大切にしていること

### 有意義な場とするために

- Give & Takeを前提に各社メンバーが年1回事例を発表
- 発表に対しての質疑・意見交換
  - 発表者への質問から研究会メンバー間の意見交換へ
- 発表内容は可能な限り具体的内容で
  - 公開できる範囲内で、より具体的内容であること
  - 発表者自身が関与し改善に取り組まれた内容であること
- 事後アンケートの入力
  - 各発表におけるアンケート内容は発表者にフィードバック
  - アンケート評価の高い発表テーマは年度末に表彰！！
  - アンケート回答皆勤賞の方も年度末に表彰！！

## (3) 会場開催形式の本格的再開

### 対面による開催を再開

- 対面参加を希望する声が多く、新型コロナが2類から5類に変更となったことを踏まえ、2023年度はオンライン中心開催から、対面開催を前提とした運営に戻し、再び人脈形成の場としての機会を設けた。
- 9月合宿に向けて、7、8月は合宿チームで討議することで、人間関係を形成した上でより深い合宿討議が行えるよう工夫した。
- オンライン開催は、集合形式が開催できない手段として活用。降雪時などの対応としてメリットもあり。

## (3) 会場開催形式の本格的再開

### 同じ場所に集う開催を振り返って

#### <良い点>

- ・ 集中して参加できた。(オンラインでは社内連絡等で意識がそがれることが有り)
- ・ 質問が昨年度より増え、質疑が活発。対面の方が質問しやすいメリットあり。
- ・ ディスカッションも活発。多角的な視点で質問が多い。
- ・ 参加者アンケートはその場で記載し、発表者へフィードバック。
- ・ 合宿前の2回、ディスカッションを合宿グループメンバーで行った。  
合宿に向けてメンバー同士が安心してコミュニケーションをとる土台作りとなった。

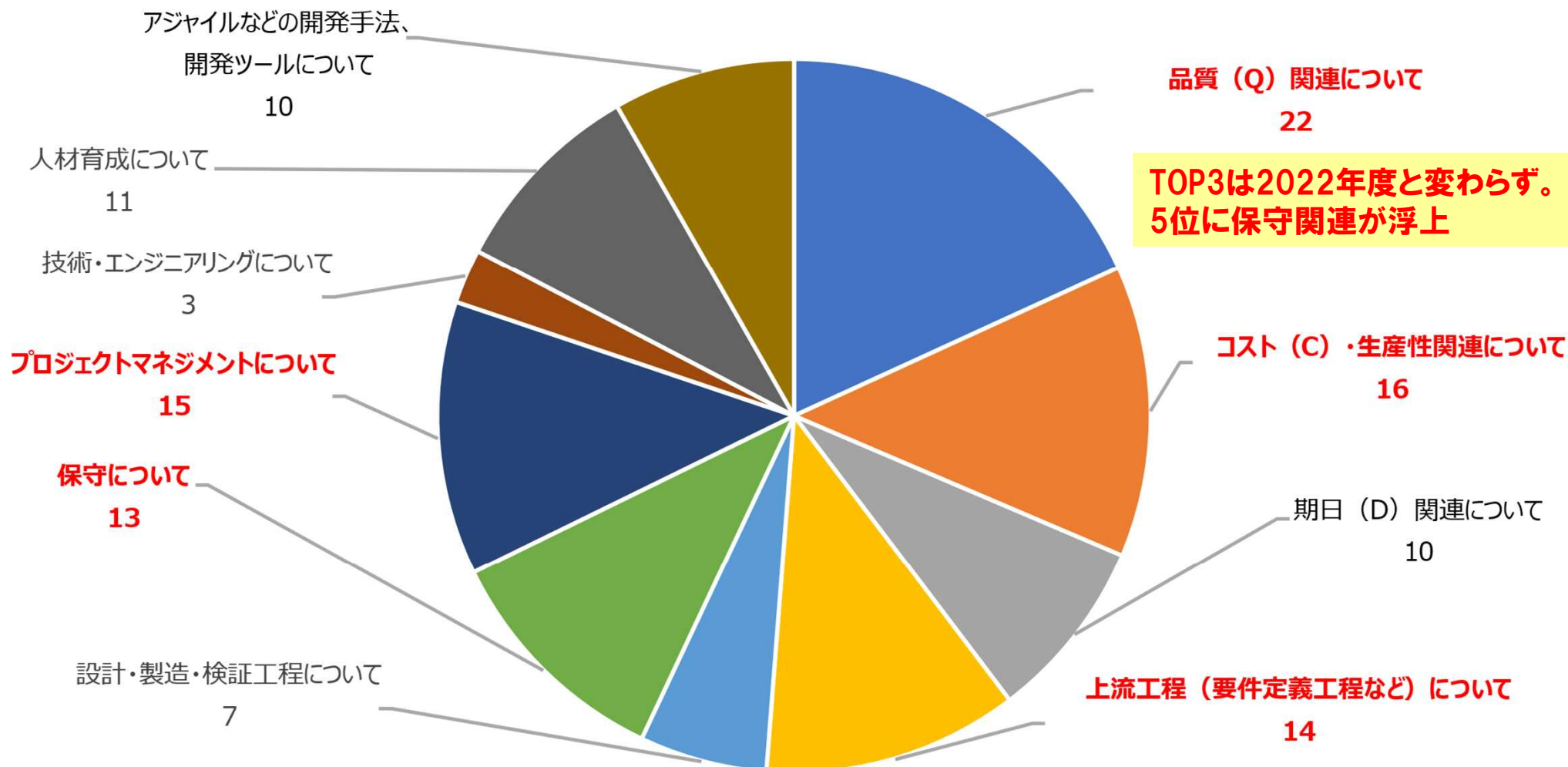
#### <改善点>

- ・ ディスカッションが活発な反面、隣接グループの声で聞こえづらい場面あり。会場制約もあるが、部屋を分ける等の対策検討も必要。

# (4) 2023年度事前アンケート

聞きたいテーマ、各社課題認識がある項目を事前アンケートを行いました。(紹介事例の検討材料として) 回答が多かった項目は以下。

1位：品質関連、2位：コスト関連、3位：プロジェクトマネジメント、4位：上流工程、5位：保守関連



3. 2023年度の取り組み

(5) 2023年度、紹介された事例は・・・

# 紹介事例(1/2)

No.	タイトル	品質（Q）	プロジェクトマネジメント	コスト（C）	期日（D）	開発ツール	上流工程（要件定義等）	保守	設計・製造・検証工程	人材育成	アジャイルなどの開発手法	技術・エンジニアリング
<b>サマリ件数</b>		<b>20</b>	<b>10</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
1	PJ管理データ可視化 ～やったこと、わかったこと、次にやること～		●			●						
2	品質改善の取り組みについて	●				●						
3	第3者ベンダ開発システムの保守引継について							●				
4	PMの人材育成の取り組み		●							●		
5	AWSシステム開発におけるQCDC	●		●	●							
6	新システム導入活動における心理的安全性について	●		●	●							
7	PMOとしての活動内容と品質評価について	●	●									
8	DX開発に向けた取組み事例の紹介	●					●		●			
9	汎用機保守・開発PJにおける品質改善に向けた取組みについて	●						●				
10	アジャイル開発・リスク統制の取組み状況について	●									●	
11	ユーザ企業としてのプロジェクトマネジメント力向上に係る取組み		●									
12	ローコードツールを活用したマイグレーションの実現					●					●	
13	開発標準プロセスにおける品質向上の取組み	●										

# 紹介事例(2/2)

No.	タイトル	品質（Q）	プロジェクトマネジメント	コスト（C）	期日（D）	開発ツール	上流工程（要件定義等）	保守	設計・製造・検証工程	人材育成	アジャイルなどの開発手法	技術・エンジニアリング
14	リノベーション開発における品質向上の取り組みについて	●	●									
15	標準化・内製化に向けたローコードプラットフォーム導入の取り組み					●						●
16	システム開発の心得～効果の高いシステムを作るために～	●	●									
17	品質向上の取り組みとコロナ禍を経た変遷	●										
18	維持管理業務における開発プロセスとQCD 活動事例のご紹介	●		●	●			●				
19	内製化・外製化とQCDの関連性について	●		●	●							
20	業務改革と並行で進めるシステム開発のQCD向上	●		●	●		●			●		
21	社内システム品質向上に向けた取り組み～会社合併を経て～	●										
22	【事例】真の企業価値を可視化し、そして最大化するために	●		●	●	●	●					
23	アプリオーナー制度について「自信たっぷりのオーナーは危ない」	●	●				●					
24	開発標準の取り組みについて		●									
25	QMS証跡管理システムの構築	●										
26	品質向上の取り組み	●	●									
27	QCD向上の取り組み	●	●	●	●							
28	開発工程の見直しによる経費効率化取組と社内展開			●					●			

# 2023年度の紹介事例の一例紹介(1/2)

## テーマ：プロジェクトマネージャーの人材育成の取り組み

### <概要、背景>

- PMO組織の拡充、マネジメントレビューの徹底等で、失敗プロジェクトの削減に取り組むことで大きなトラブルに発展するプロジェクトは少なくなっている。
- 一方、システム開発以外でもプロジェクトマネジメントの重要性が高まっており、プロジェクトマネージャーの人材育成のための研修を企画・実施。

### <取り組み・効果>

- テーマはプロジェクト目標、進捗管理、リスクマネジメント、WBSなど多岐にわたって設定。
- 座学ではなく、ワークショップ形式で実施。
- ケーススタディを提示して受講者がグループ討議。能動的に考えることで意識が定着化。
- システム開発に特化した内容とせず、身の回りで起きていることがプロジェクトであることを感じてもらうことで、自分事化してもらうことができた。

### <参加者の反応>

- 自社にはPM育成研修が無く、参考になった。
- 受講者視点の研修方法など、具体的な内容を聞くことができ参考になった。

# 2023年度の紹介事例の一例紹介(2/2)

## <発表スライド例>

JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

主なプロマネ系の研修

プロジェクトマネジメントのすそ野を広げていく必要性

↓

- PM基礎研修では、プロマネを学ぶにはちょっとハードルが高い人もいるという現場の声
- 営業、企画、製造部門にもプロジェクトマネジメントを学ぶ必要性が上ってきた

↓

プロジェクトとはどんなものかを考えてもらう研修を企画・実施してみました

2

JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

これから始める「プロジェクトマネジメント」

研修の特徴

- ・座学にしない。⇒ ワークショップ形式

プロジェクトにかかわるお題を提示し、受講者がグループ討議で話し合ってもらおう。

そのあとに、講師が解説・説明を実施する。（できれば、腹落ちしてもらおう）

能動的に考えてもらうことで意識の定着を図る

- ・システム開発に特化した内容としない

システム開発以外でプロジェクトを意識できる題材を扱う。

身の回りで起きていることがプロジェクト(っぽい)ことを感じてもらう。

プロジェクトの自分事化

4

JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

これから始める「プロジェクトマネジメント」

1. 「プロジェクト」ってなに？
2. プロジェクトの目標とは
3. 進捗管理について考えてみよう(事例問題)
4. リスクマネジメントについて考えよう
5. WBSって大事なんです
6. プロジェクトにはいろいろな人が関わっています
7. プロジェクトに関わるための心構え
8. まとめ

5

JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

これから始める「プロジェクトマネジメント」

なぜ、進捗管理が必要なのか

- ・ 進捗は、計画がないと進んでいるか、遅れているかわからない
- ・ 状況報告だけで満足してはいけない
- ・ PMはいち早く、プロジェクトの悪い芽を見つけて、対処する意識が必要

進捗管理がなぜ必要なのか  
どんな情報が必要なのか  
プロジェクトマネージャは何をしなくてはいけないのか

知識ではなく、どう意識で進捗状況を確認するのか

8

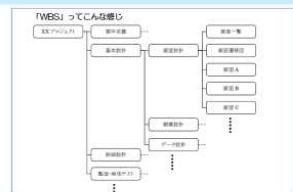
JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

これから始める「プロジェクトマネジメント」

WBSについて考えてもらいます。

[WBSとは]

WBS(Work Breakdown Structure)は、作業分解図と訳され、プロジェクトを完了するために必要な全ての作業を洗い出し、階層的な系統図で表したものです。プロジェクト作業をより小さく扱いやすい作業単位に細分化したもので、レベルが一段下がるごとに、プロジェクトの作業をより詳細に定義します。最下位レベルの構成要素をワークパッケージと呼びます。WBSを作成することにより、プロジェクトに何が含まれ、何が含まれないかを明確にすることができます。



9

JIUAS システム開発・保守QCD研究会 協賛

これから始める「プロジェクトマネジメント」

受講後アンケート

仕事に役立ちますか？	実践しようと思いましたが、理由を教えてください
5. そう思う	プロジェクトの案件に限らず、課の活動においてもスコープ・資源・時間を意識していると感じたため。
5. そう思う	リスクマネジメントをしっかり考えようと思いました。
5. そう思う	スコープ・時間・資源の関係性/目標は具体的に/WBSの重要性/共通認識だと思込まずに明確にすり合わせる...等々、取り入れていきたい点が多々ありました。近日常に実践の場を得られそうなので、休得を目指したいと思います
5. そう思う	プロジェクトはプロモーション企画も含め、数多く関わってきましたが、PMとしてのスキルがまだまだ足りないことに改めて気づくことができました。とくに、細やかで具体的な進捗管理には今後留意していきたいと思つきます。
5. そう思う	今まではなんとなく、今までの経験で業務を行っていたが、今後はプロジェクトの3要素をベースに仕事を組み立てていき、よりスムーズに業務を行っていきたく思つた。プロジェクトに関わる心構えも参考になった。
5. そう思う	練習問題で、登壇人物の報告の仕方について問題点を考える件、沢山の気づきがありました。プロジェクト案件でなくても客観的に自分の行動にも改めたいと思つきました。
5. そう思う	プロジェクトに形態をとっていかなくても、WBSのように業務を分解する思考は絶対に必要な要素だから。
4. だいたいそう	3. どちらでもな以前から考え方は実践していました。今後は大きなプロジェクトがあれば役に立つことあるかと思つきます

14

# アンケート評価が高かった紹介事例

テーマ	参加者の声
<p><u>アンケート評価 1位</u> 内製化・外製化と QCDの関連性について</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・とても貴重なプロジェクト経験をされている中で、内製・外製の軸でうまく分析されており、また、最後の考察もご自身の想いを感じることができ、とても興味深かった。</li><li>・資料、ご説明内容が共に体系的にまとめられており、また、経験されてきた事例をもとに紹介されており、1つ1つが興味深い内容であった。昨今、ユーザ企業、IT子会社、ベンダ（日本の開発者）の要員・パワー不足が聞かれるが、解決方向性が外製化を推し進めることなのか、海外オフショアの導入か等悩んでおり、今回の発表内容がとても参考になった。</li></ul>
<p><u>アンケート評価 2位</u> PMの人材育成の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・システム開発職メンバー以外の部門に向けたPMの研修について非常に参考になった。弊社でもIT部門のリソースの制約上、業務部門主体的でITに関わるプロジェクトを推進してもらおうケースが増えており、このような研修を社内でも企画実施できると非常に価値があると感じた。</li><li>・当社にはPMを体系的・組織的に育成する仕組みが無いなど改めて思った。PMがしっかりしていなくて、システム障害に至るケースもあるので、こういう研修などで底上げするのも大事なのではないかと考えている。</li></ul>
<p><u>アンケート評価 3位</u> QCD改善に向けての 取組事例</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・現状、自社に明確な品質保証プロセスがないので、品質保証プロセスの導入の進め方と、品質意識を高める施策の展開が非常に参考になった。合併相手に品質管理をする部署がない中で、どのように品質プロセスを導入・定着させていくかは、品質管理部門がない自社において、自分自身がまさに取り組みたいと思っていた内容であり参考になった。</li><li>・会社合併を2度も経験され、システムプロセス標準を浸透させるご苦労はとても大変だったと思うが、標準化プロセスは、弊社と似ている部分も多くとても共感する点が多かった。品質四季報や障害傾向分析などの可視化も参考になった。</li></ul>

## 4. 今年度固有の活動 -JUASアカデミー開催

# 今年度固有の活動) JUASアカデミー開催

## JUASアカデミー概要

JUASアカデミー

JUAS会員無料

JUASシステム開発・保守QCD  
研究会究会主催

目指すべきDX:  
プログラムマネジメントとBI/AIの活用術

2023年12月18日(月)14:30-18:00 会場開催

- 概要：
  - ✓ 2023年12月18日(月) 14:30-18:00 @JUASセミナールーム
  - ✓ 内容：NTTデータグループ様と初田賢司様のご講演。研究会拡大JUASアカデミーとして、プロジェクト管理ツール（BI/AI）やDX推進のためのプログラムマネジメントについてお話を伺いました。
  - ✓ 会場開催のみ。出席：37名（予約39名）
- 状況
  - ✓ 保険会社からは生損保問わず複数の会社様が参加。
  - ✓ 多くの会社様が複数人でご出席くださいました。
  - ✓ 想定を大幅に超える質問があり、受け付けしきれない状態になりました。

# 今年度固有の活動) J U A S アカデミー開催

## 発表の内容について

- NTTデータグループ様：「データを駆使してプロジェクト管理に変革を！～BI/AI活用事例のご紹介～」
  - ✓ プロジェクトを管理する部署が、Redmineのような管理ツールを使用して炎上を未然に防ごうとする際等、管理ツールでのウォッチにトラディショナルな管理方法からAIを取り入れることで〔ヒトにしかできないこと〕に注力するための、NTTデータグループ様内部での取り組みのご発表。
  - ✓ 管理ツールへの入力内容をAIが文章指摘する仕組み化を行ったことで、社風や国籍を問わず、品質管理側の求める文章に近い内容になってきている。

# 今年度固有の活動) J U A S アカデミー開催

## 発表の内容について

- 初田賢司様：「DX推進にはプログラムマネジメントの視点が不可欠だ」
  - ✓ 現在のプロジェクトマネージャーは、複数の相関するP Jに関わる『プログラムマネジメント』が実態として多いが、日本にはその考え方が浸透しておらず、翻訳本もほとんどなく、体系化された概念が浸透していない。
  - ✓ ユーザー企業は、DX推進のためにプログラムマネジメントを自社のIT戦略に組み込み、実践することが必須。プログラムの概念から始め、なぜDX推進に欠かせないのか？また、ベンダーではなくユーザー側で必要になる理由、プログラムマネジメントを行ううえでのポイントなどを解説。

## 5. 2023年度、沼津合宿が復活しました

# 合宿の概要

## ● 日時・場所

日時：9月29日（金）13:00

～ 30日（土）12:00

場所：沼津・プラザヴェルデ



## ● 研究会での目的・実施要領

事前に選定したテーマ毎に複数チームに分かれてディスカッションを行う。各社の施策事例や参加者の経験を積極的に共有しながら進めることで、各々が抱える課題・問題の本質を明確にし、解決に繋がる気付きを得る。

### 【我々が大切にしたいこと】

- 成果物作成を目的にせず、より多くの時間をディスカッションに充てる。
- 全員が活発に意見交換を実施し、より多くの気付き、知見を得る。
- 合宿という非日常の空間・時間を利用し、更なる交流、懇親に繋げる。

# 合宿に向けた準備 (合宿のテーマ決定)

23年度の合宿テーマは  
「QCD (含む密接な関係にあるキーワード) 」 × 「心理的安全性」

## <合宿のテーマ>

1. 心理的安全性とQCDとの関係性
2. チームビルディングと心理的安全性
3. 心理的安全性と人材育成

# 合宿に向けた準備 (心理的安全性に関する知識習得)

合宿テーマの軸となる心理的安全性について参加者の理解を深めるべく、合宿に向けた準備の一環として、心理的安全性に関する基調講演を開催。

## <基調講演の概要>

目的：心理的安全性について知る

### <目次>

#### 1. 心理的安全性とは何か？

- ・元々のお話
- ・再評価の流れ
- ・期待される効果

#### 2. 心理的安全性とQCDの関連性

QCD、カイゼン、イノベーションの比較  
期待される効果

## (参加者の声)

発表(ご講演)ありがとうございました。  
お忙しい中、お時間を頂き、当研究会  
のためには資料作成もありがとうございました。  
これを機に、改めて9409. 講演に  
つなげていきたいと思っております。

基本的な知識・考え方の、応用編、マネージメント  
充実した発表資料を準備いただき、説得力のある話が  
伺え大変勉強になりました。  
心理的安全性という言葉のイメージや自身が社内などで  
耳にした言葉の理解とは異なり、色々なキーワードを  
ご教示いただき、感謝いたします。ご発表ありがとうございました。

# テーマごとのグループ分け

合宿で討議したいテーマは事前アンケートを実施した。  
参加者の希望をもとにグループ分けを行いました。  
各テーマごとに以下構成、人数配置でグループ分けを実施した。

A チーム. チームビルディングと心理的安全性

**6名グループ**

B チーム. 心理的安全性と人材育成

**7名グループ**

C チーム. 心理的安全性とQCDとの関係性

**7名グループ**

D チーム. 心理的安全性とQCDとの関係性

**7名グループ**

E チーム. 心理的安全性とQCDとの関係性

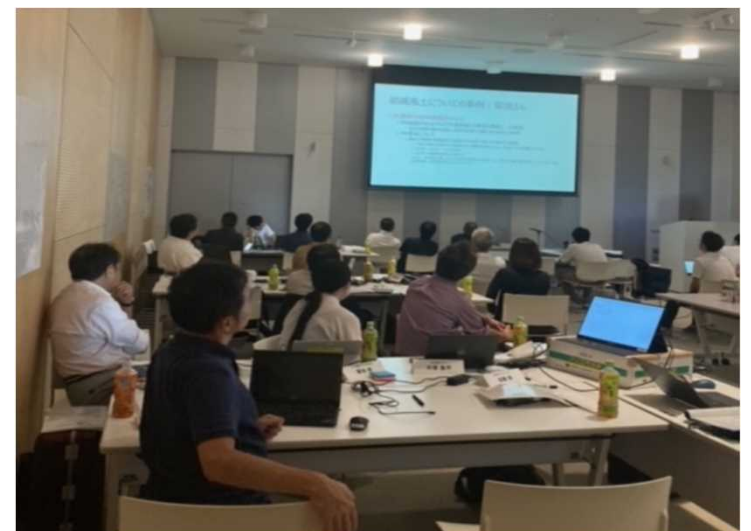
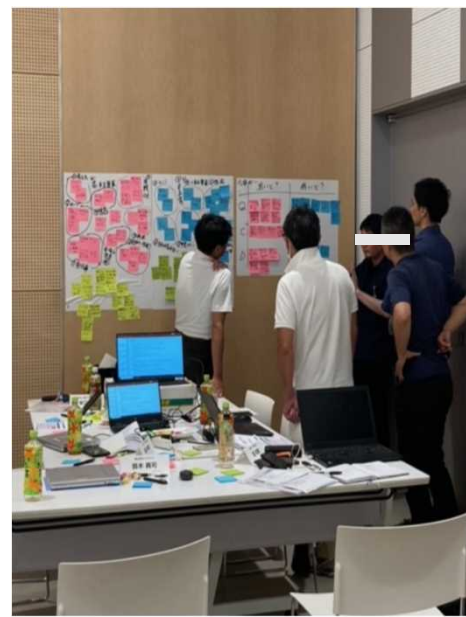
**6名グループ**

# タイムスケジュール

Start	End	
<b>9月29日 (金)</b>		
13:00	13:05	合宿の大まかな流れの説明
13:05	15:00	ディスカッション①
15:00	15:30	中間発表 (1チーム5分×5チーム)
15:30	17:30	ディスカッション②
17:30	18:00	ホテルに荷物を移動 ⇒ 懇親会会場への移動
18:00		合同懇親会 ⇒ 二次会へ (全員参加)
<b>9月30日 (土)</b>		
08:45		討議会場解錠
09:00	10:00	ディスカッション③
10:00	11:30	最終発表 (1チーム10分発表、質疑応答5分 ×5チーム)
11:30		お片付け
12:00		解散



# 合宿の様子



# 合宿の成果物 (抜粋)



JUAS QCD研究会合宿 チームC(2023年9月29日～30日) 最終発表 (2023年9月29日～30日)

■ テーマ

心理的安全性とQCDの関係性

■ 事前課題

課題 (興味・関心の対象)	心理的安全性に関わる 自社or自身の取り組み内容	ターゲット (立場)	状況	自分自身 どうしたいのか
(例)組織/品質/進捗	取り組み内容	同僚/上司/関係先	取組中/今後	やりたいこと

■ 進め方

各自に記入いただいた事前課題の内容を説明してもらい、その内容を以下の分類に分け理解・深掘りする。

分類	内容
①心理的安全性の リテラシー活動	・モチベーションコラムの共有 ・心理的安全性の経営層からの説明 ・「理想の職場づくり」の社長指示
②自社の取り組み (適用事例紹介)	・部門品質管理者との定例会議 ・QCDモニタリング ・PJのコミュニケーション計画 ・共創案件でのスクラムマスター
③やってみよう取組 (提案)	・心理的安全性の阻害要因低減 ・障害を個人の責任にしない ・顧客との協力関係 ・要件を親会社が決める ・問題発生兆候発生時の早めのエスカレーション ・の改善

心理的安全性が高い状態に変えていくには/今後の課題

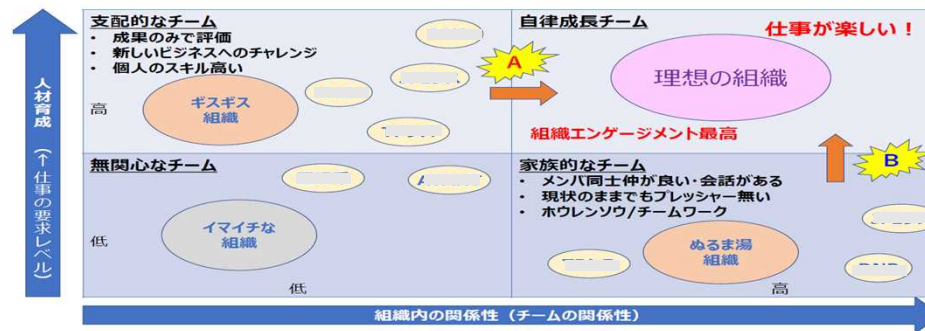
心理的安全性が高い状態に変えていくには

- ① 言い方：NGワードをOKワードに変えていく  
「なんで」「どうするの」 → 「どうしようか」「なにか事情があったの」
- ② 場の雰囲気：高頻度に行う（朝会、夕会）、対面で行う
- ③ 事前に仲間を作る：孤立させない、場の雰囲気を徐々に変える

今後の検討課題

- ・ 上位者へのアプローチ方法
- ・ 効果はじわじわ

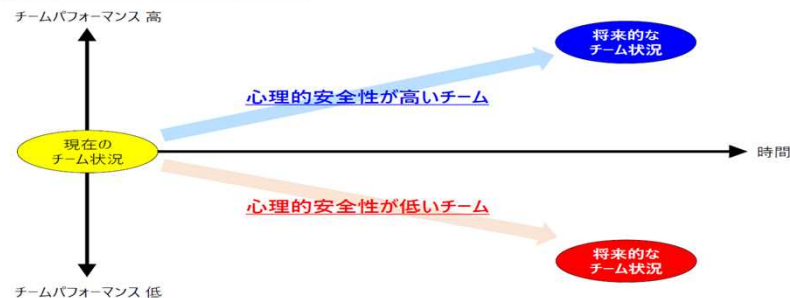
【状況整理】心理的安全性と人材育成が両立できる組織とは？



3-1. チームビルディングと心理的安全性の関係

- ✓ チームのパフォーマンスを最大化させるためには、心理的安全性が高いことが望ましい。
- ✓ ただし、チームビルディングにおける心理的安全性は手段のひとつであって目的ではないと考える。目的はあくまでもチームのパフォーマンスの最大化と考える。

心理的安全性とチームパフォーマンスのイメージ



## 沼津合宿の感想 (抜粋)

・ 心理的安全性を構成する要素・背景・方法論について、やはり共通するものが多く出てきた印象があります。

研究会として、次は実践にどうつなげるか、実践してみたらどうだったか、という具体的な議論へ進められればより価値が生まれるのではないかと思います。

・ テーマがチームビルディングと心理的安全性だったため、各メンバーの具体的なチーム構成や実施している取り組みなどをヒアリングすることができました。

各社同じような悩みを抱えている中でも色々工夫して改善しようとしている部分は大変参考になり、是非とも自分のチームでもできる範囲で推進していこうと思いました。

# 6. 2024年度の取り組みについて

## 6. 2024年度の取り組みについて

- ✓ 当研究会は、2015年度以前より、メトリックス調査協力のプロジェクトとして立ち上がり、以降活動を続けてきました。
- ✓ 当時立ち上がった際のメンバーの参加はなくなり、参加メンバーも各社の品質管理責任者が多く参加していた時代から、経験あるプロジェクトマネージャーが多く参加する時代に変化してきました。
- ✓ QCDを扱う研究会である以上、変化は必然であり、2023年度で当研究会としての活動は終了します。
- ✓ 2024年度からは、変化を受け入れ新たな研究会を立ち上げることになりました。次年度参加を検討している方は、新たな研究会への参加をご検討ください。

ご清聴いただきありがとうございました。